

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	人間市立金子小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	4	3	4	1	22	30
児童数	108	120	117	122	104	123	1	695	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学びの力の育成 一人一人に応じたきめ細かな指導法の追究</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>・2, 4, 5年生 国語 1, 3, 6年生 算数 ・学校として昨年まで、国語と算数を研修してきた実績があるため。 ・授業の中で最も多くの時間が配当されている2教科であり、児童の理解の状況に差が出やすいため。 ・低、中、高学年のブロックごとに国語と算数の研究に取り組むため。 ・各学年で算数における少人数指導を実施しているため。</p>

(2) 年次ごとの計画

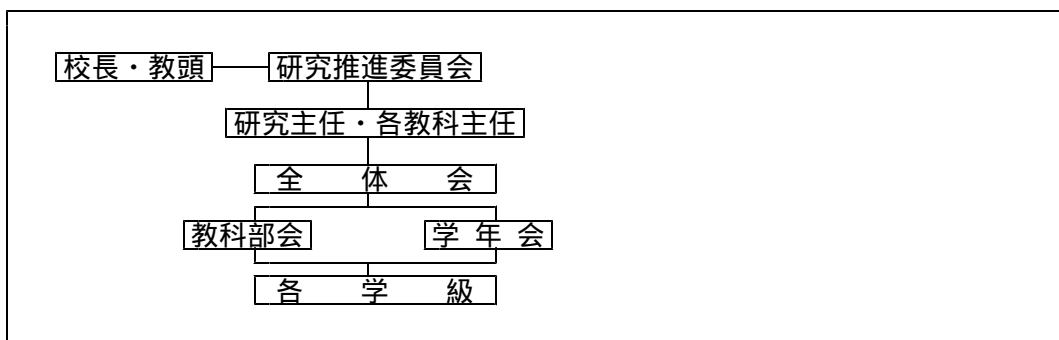
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 確かな学びの力の育成 一人一人に応じたきめ細かな指導法の追究 研究の見通し(仮説) 児童一人一人の実態を捉え、一人一人に応じたきめ細かな指導を繰り返せば、できる喜びを味わわせ、必然的に学習も意欲的になり、基礎基本の定着はもとより、確かな学びの力が育成されるのではないか。 研究の内容・方法 研究の内容 個に応じた指導のための指導方法の工夫改善 指導に生かす評価活動の工夫改善 学力向上をめざした学習環境の工夫改善 研究方法 ...授業実践を通して学力向上、基礎基本の定着を目指し研究を進める。 全学級において指導者を迎えての授業研究会を開催する。 個に応じた指導のための指導方法の工夫改善について ・少人数指導の充実のために(算数...全学年少人数指導を導入)</p>
--------	---

	<p>算数、国語の授業研究を通し、効果的な少人数指導について研究推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な支援の在り方の研究のために 子どもが自分で選択できる補助教材の開発 指導の充実を目指した指導記録の工夫改善の実施 ・個別学習や繰り返し学習の充実のために 朝自習等でのスキル学習の実施 全学年一貫した教材・教具の開発 授業に生かす評価活動の工夫改善について ・授業での評価、支援の方法の具体化 ・指導に反映できるよう指導案への位置づけ ・個に応じた指導に生かす自己評価、相互評価の工夫 学習環境の工夫改善について ・学習意欲を高める掲示物、展示物などの学校環境の整備 ・掲示物や具体物等の学習に役立つ教室環境の整備
--	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学びの力の育成 一人一人に応じたきめ細かな指導法の追究 研究の見通し 児童一人一人の実態を捉え、一人一人に応じたきめ細かな指導を繰り返せば、できる喜びを味わわせ、必然的に学習も意欲的になり、基礎基本の定着はもとより、確かな学びの力が育成されるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法 研究の内容 個に応じた指導のための指導方法の工夫改善 指導に生かす評価活動の工夫改善 学力向上をめざした学習環境の工夫改善</p> <p>研究方法 …授業実践を通して学力向上、基礎基本の定着を目指し研究を進める。 全学級指導者を迎えての授業研究会を開催する。 個に応じた指導のための指導方法の工夫改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の充実のために（算数…全学年少人数指導を導入） 算数、国語の授業研究を通し、効果的な少人数指導について研究推進 ・効果的な支援の在り方の研究のために 子どもが自分で選択できる補助教材の開発 指導の充実を目指した指導記録の工夫改善の実施 ・個別学習や繰り返し学習の充実のために 朝自習等でのスキル学習の実施 全学年一貫した教材・教具の開発 授業に生かす評価活動の工夫改善について ・授業での評価、支援の方法の具体化 ・指導に反映できるよう指導案への位置づけ ・個に応じた指導に生かす自己評価、相互評価の工夫 学習環境の工夫改善について ・学習意欲を高める掲示物、展示物などの学校環境の整備 ・掲示物や具体物等の学習に役立つ教室環境の整備
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・児童の学ぶ姿勢や意欲が高まり学習への取り組みが主体的になった。
- ・きめ細かな指導やスキル学習を通して児童の思考力・表現力・知識等の基礎的基本的な力に高まりが見られた。
- ・児童に課題追究の学習過程が徐々に浸透してきた。
- ・以上の成果は、日々の学習の中でも見られるようになり、他教科への波及効果が見られた。
- ・個に応じた指導に対する教師の意識が高まり、少人数指導を始め具体的な指導法の工夫（各教材開発・評価法等）へとつながった。
以上の成果は、児童・教師への実態調査から明らかになった。

2. 今後の課題

- ・児童のニーズ（興味関心や課題別等）に応じたコース別学習を実現するための指導計画を作成及び内容の更なる工夫をする必要がある。
- ・国語や算数に対する意欲の高まりも見られたが、依然苦手意識を持っている児童も多くいる。原因のひとつは基礎基本（漢字・計算・九九等）の定着度にある。習熟に向けた指導法の工夫及び時間確保と内容の一層の充実を図る必要がある。
- ・表現したり考えたりすることが苦手な児童は減りつつあるが、表現力や思考力を更に高めることは、今後とも中心的な課題である。（自分の言葉で適切に表現する。他に積極的に伝える。多様に考える。応用力等を育てる。）

学力等把握のための学校としての取組

- 人間地区学力調査（国語・算数） 4月上旬実施
- ・本テストにより児童の学力の伸びや課題等を把握することを目的としている。
 - ・毎年4月全学年で実施する。前学年の学習内容について児童の学力を問題毎、領域毎に見るテストで、地区内や市内の他校や前年等との比較ができる。
- 学習状況や生活習慣に関するアンケート調査 1, 3学期実施
- ・同じ設問でのアンケート調査により児童の学習状況の変化を把握する目的で実施している。
 - ・生活習慣と学習との関わりについても捉えるために、学校や家庭での学習状況の調査のほかに生活習慣についても調査している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開の研修会を本市及び西部地区管内の学校に向けて平成16年11月に実施する予定である。
- ・研究の途中経過を西部管内の学校の集まった研究会でフロンティアティーチャーが平成16年2月3日に報告した。
- ・本校の研究紀要を作成した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無